

「つながろう 湯浅！」

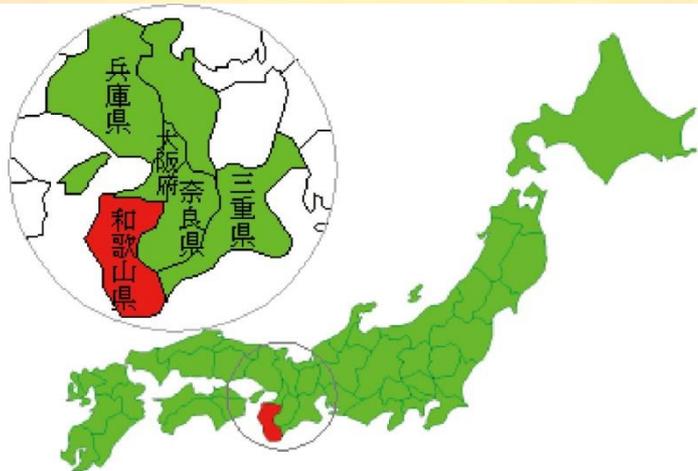
～人と人がつながる家庭教育支援～

湯浅町教育委員会

家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」

c	o	m	m	u	n	i	T	y											地域	
		s	u	p	p	o	R	t												支援
		a	d	m	i	n	I	s	t	r	a	t	i	o	n					行政
			e	d	u	c	A	t	i	o	n									教育
c	h	i	l	d	r	e	N													子ども
							G	o	o	d										良い
		s	c	h	o	o	L													学校
				h	o	m	E													家庭

和歌山県・有田郡・湯浅町



特産：みかん・びわ

アジ・サバの漁場

醤油・金山寺味噌

文化：熊野古道

伝統的建造物群保存地区

町内の主な施設地図

田村小学校
吉川分校
田栖川小学校
湯浅中学校
湯浅小学校
山田小学校

▲熊野古道
 ▲湯浅警察署
 ▲湯浅消防署
 ▲湯浅町総合センター
 ▲湯浅中央公民館
 ▲湯浅町役場
 ▲湯浅駅
 ▲湯浅インターチェンジ
 ▲町民プール
 ▲二の丸温泉
 ▲湯浅神社
 ▲湯浅国民宿舎
 ▲湯浅国民球場
 ▲湯浅テニスコート

湯浅町の状況

R2年（4月1日現在）

- 人口：11,800人
- 小学校4校 児童数：559人（415世帯）
- 中学校1校 生徒数：303人（272世帯）
児童生徒数合計：862人（687世帯）
- 就学前 乳幼児数：394人（307世帯）
 - 町立保育所（3所）
 - 私立幼稚園（1園）
 - 私立保育園（1園）
 - 子育て支援センター（1ヶ所・町立保育所内）

地域社会や家庭の状況

核家族化
単親家庭の増加
地域社会の希薄化
地方経済の衰退



- 子育て経験の非継承
- 子育てへの無関心
- 親の価値観の多様化
- 子育て家庭の孤立化
- 経済的不安定

孤立していく家庭



※家庭・保護者の
不適切な養育
※教育力の低下

児童虐待・DV
子どもの貧困 養育放棄
過度なクレーム etc.

学校や家庭の課題

■ 以前：生徒指導上の問題行動

（校内暴力・器物損壊・窃盗・虞犯行為等）

子ども自身の問題
として

■ 近年：家庭環境・養育の問題

（不登校・いじめ・怠学・性非行等）

子どもを取り巻く
環境の問題として

原因

家庭・保護者の不適切な養育（虐待・DV等）

背景

- ◇ 保護者自身が不適切な養育に中で育った
- ◇ 子育て家庭の孤立化（単親、交友関係希薄等）
- ◇ 経済的不安定（子どもの貧困） etc.

家庭の教育力の低下とは？？？

家庭教育力の低下とは？

子育てしにくい社会の中での家庭教育

- ①社会・経済的格差の広がり（格差社会・学力格差）
- ②家庭の多様化（核家族化・ひとり親家庭・再婚…）
- ③親世代と子供世代の価値観の接近・同等化
- ④高い人間関係の必要性（人間関係の私的化）
- ⑤情報化社会の中のコミュニケーションリスク
- ⑥孤立しやすい家庭（自分からSOSが出せない）

地域社会や家庭の課題に対して

■ 地域社会の希薄化

↓
① 地域と家庭・人と人とのつながりづくり
孤立していく家庭

↓
② 孤立傾向の家庭に対しての支援

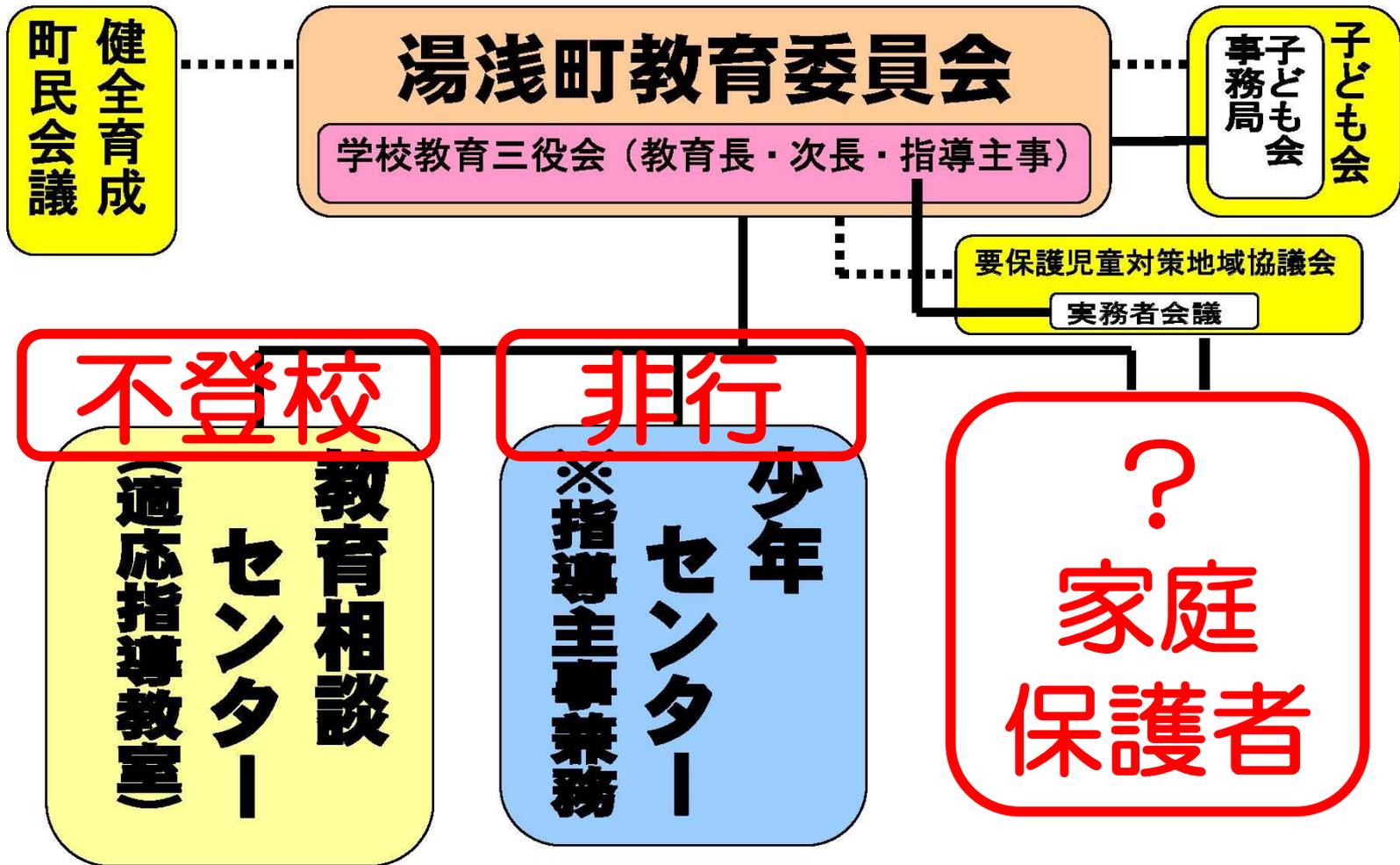
- ・ 困っている状況なのに、その事がわからない
- ・ 支援が必要でも、それを自分から求められない

アウトリーチで
全戸訪問

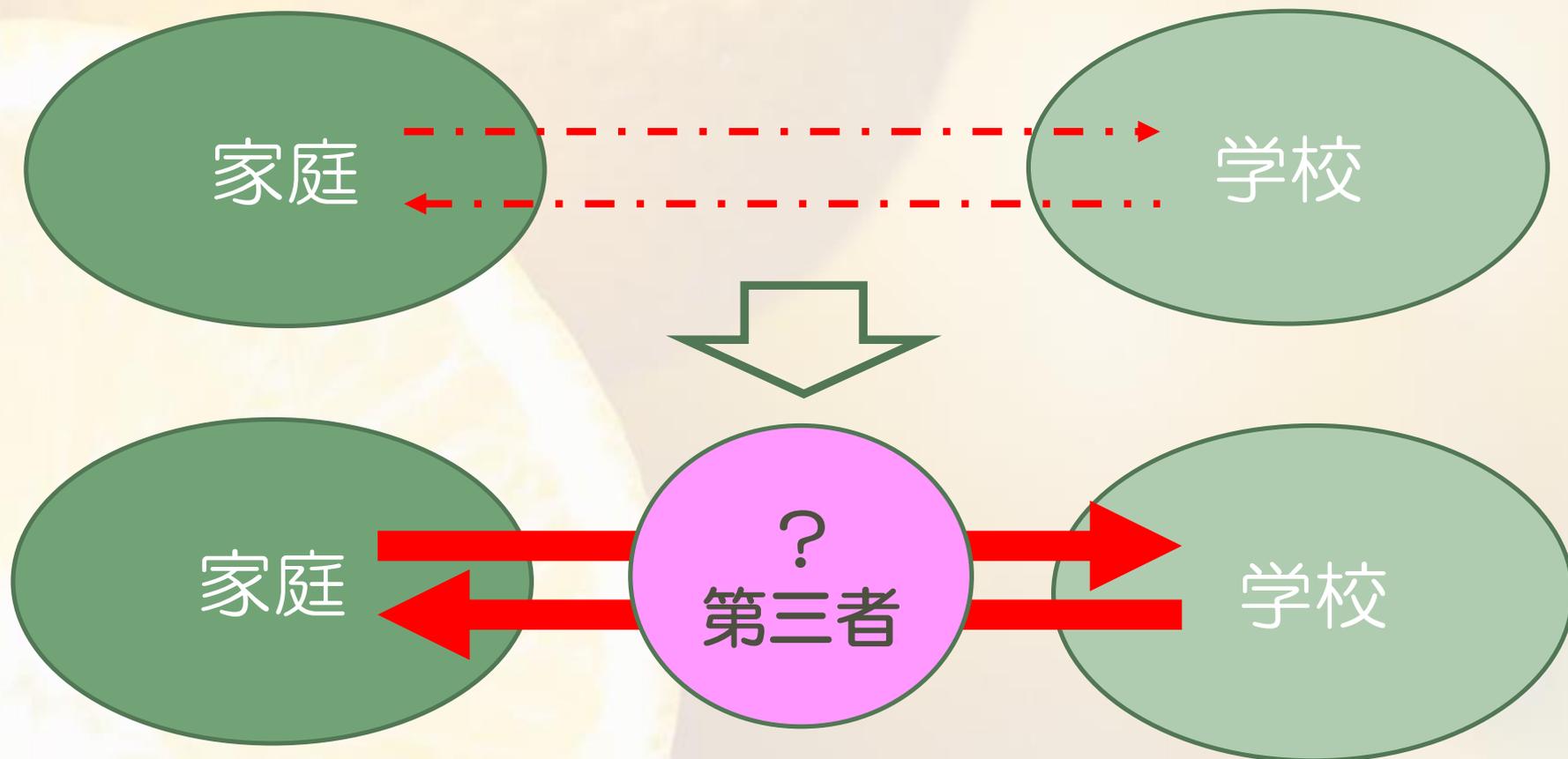
未然防止、早期発見、早期対応

(全ての子供のために！)

湯浅町：子どもや家庭への支援体制



学校と家庭の連携強化を図るには？



課題 : 家庭・保護者といかにつながるか？

: 学校として、どこまで対応するのか？

課題解決のために・・・①

◇H20 スクールソーシャルワーカーを配置

■学校・教職員への相談対応支援

■問題を抱えた児童生徒の保護者への直接支援

■関係機関（福祉・医療・要対協等）との連携による支援

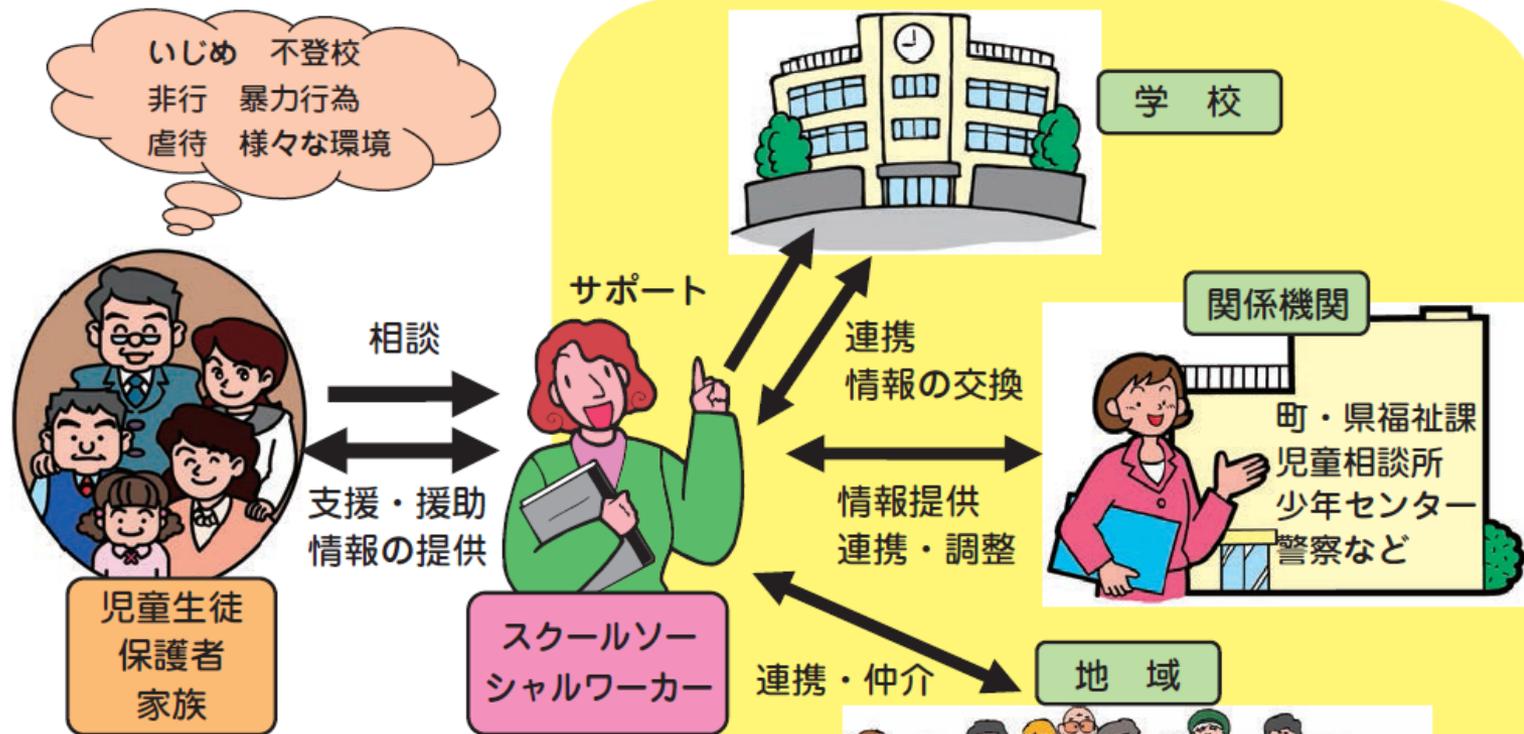


▲「根本的な解決につながりにくい」という課題
に対してどうするか!?

スクールソーシャルワーカー活用事業

- 児童生徒の問題行動等の状況や背景には、児童生徒の心の問題とともに、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれている環境の問題が複雑に絡み合っているものと考えられる。したがって、児童生徒が置かれている様々な環境に着目して働き掛けることができる人材や、学校内あるいは学校の枠を越えて、関係機関等との連携をより一層強化し、問題を抱える児童生徒の課題解決を図るためのコーディネーター的な存在が、教育現場において求められている。

スクールソーシャルワーカー (SSW) って？



湯浅町ではスクールソーシャルワーカーが教育委員会に配置され、学校・地域・行政関係や関係機関と連携しながら、子ども達が健全な学校生活を送れるよう支援を行っています。

困ったことや心配事の相談は、学校や教育委員会のスクールソーシャルワーカーまで！

教育委員会 TEL 63-1111

スクールソーシャルワーカーの主な活動

■ 学校（園所）・教職員からの相談対応

管理職との連携 教職員との情報交換 いじめ対策会議
授業観察 学校との定例的な会議 個別のケース会議

■ 子どもや保護者からの相談対応

家庭訪問や面談等で直接支援 各関係機関につなぐ

■ 家庭教育支援員との連携

支援員からの報告や情報への対応（学校への連絡・指導
主事への報告相談・支援員への返答・指示）

■ 要保護児童対策地域協議会等における支援活動

■ 関係機関との連携

SSWと連携機関

- スクールカウンセラー（SC）
※個々の心の内面に関わり問題の改善を図る
- スクールソーシャルワーカー（SSW）
※個々の環境に関わり問題の改善を図る

小・中学校を基盤として、
主に連携している関係機関

児童相談所、警察、要対協
保護司、医療機関、保健師
県・町の福祉課、社会福祉

協議会、町少年センター、適応指導教室、県ケースワーカー
包括支援センター、ケアマネージャー、SC、高等学校、保育
所、幼稚園、学童保育所

課題解決のために… (2)

◇H21 訪問型家庭教育相談体制充実事業

- **支援が必要な家庭**へのアウトリーチ型支援として家庭教育支援チーム「**とらいあんぐる**」立ち上げ
- **SSW**がチームリーダーとなる
- 問題の**未然防止**、**早期発見**・**早期対応**

全戸訪問 による支援

小中学校の
児童生徒対象

H27年度、利用者支援事業による教育
と福祉（**医療・介護・保健**）との協働

0才児から義務教育
終了まで対象に！

子ども・子育て支援新制度 (内閣府)

福祉との連携強化

■利用者支援事業（1 / 3補助）

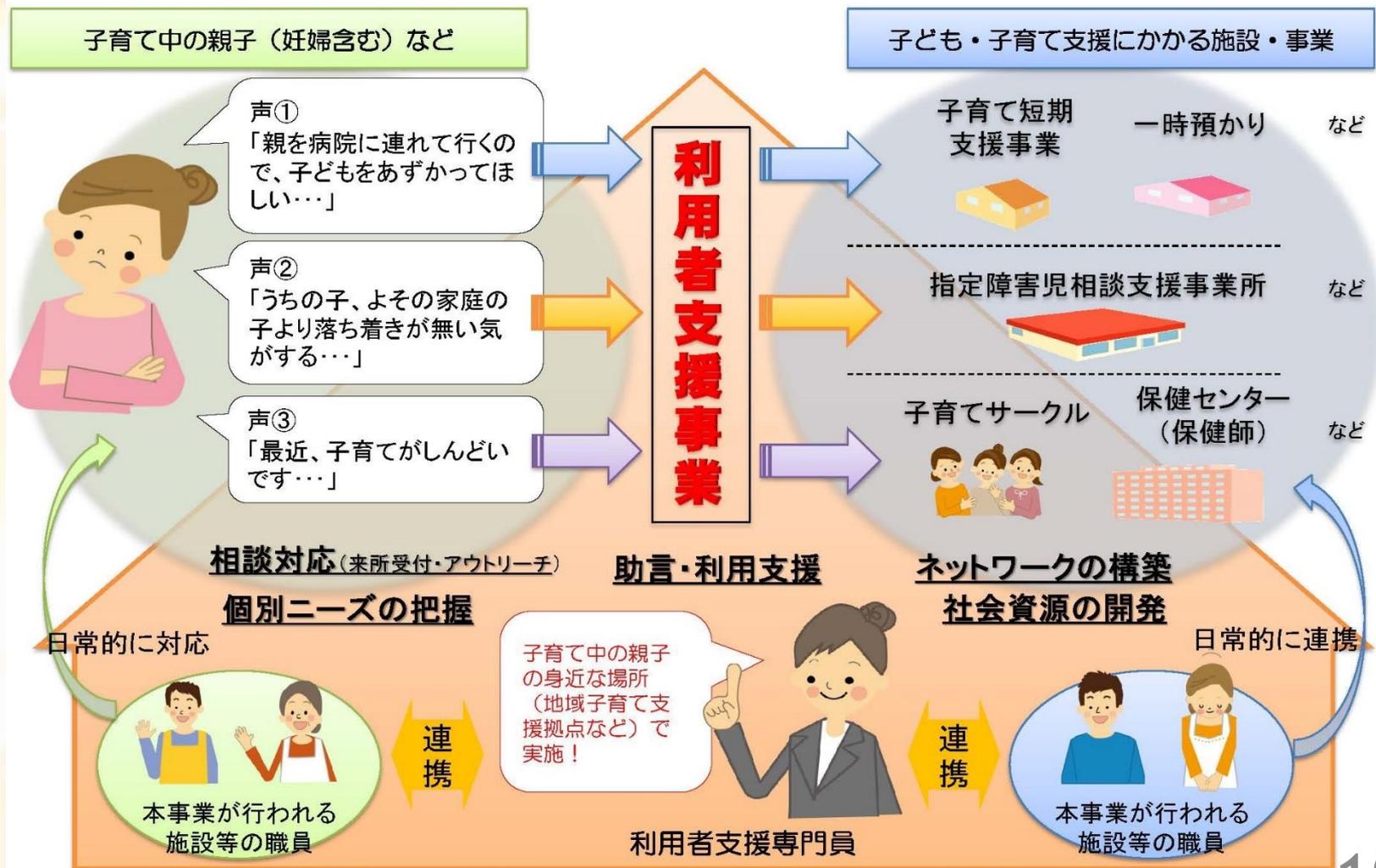
- 子育て家庭の個別ニーズを把握し、適切な施設・事業等を円滑に利用できるよう実施する。
- 地域の様々な子育て関係者や関係機関とのネットワークを構築し、必要な社会資源等の開発に努める。

利用者支援事業

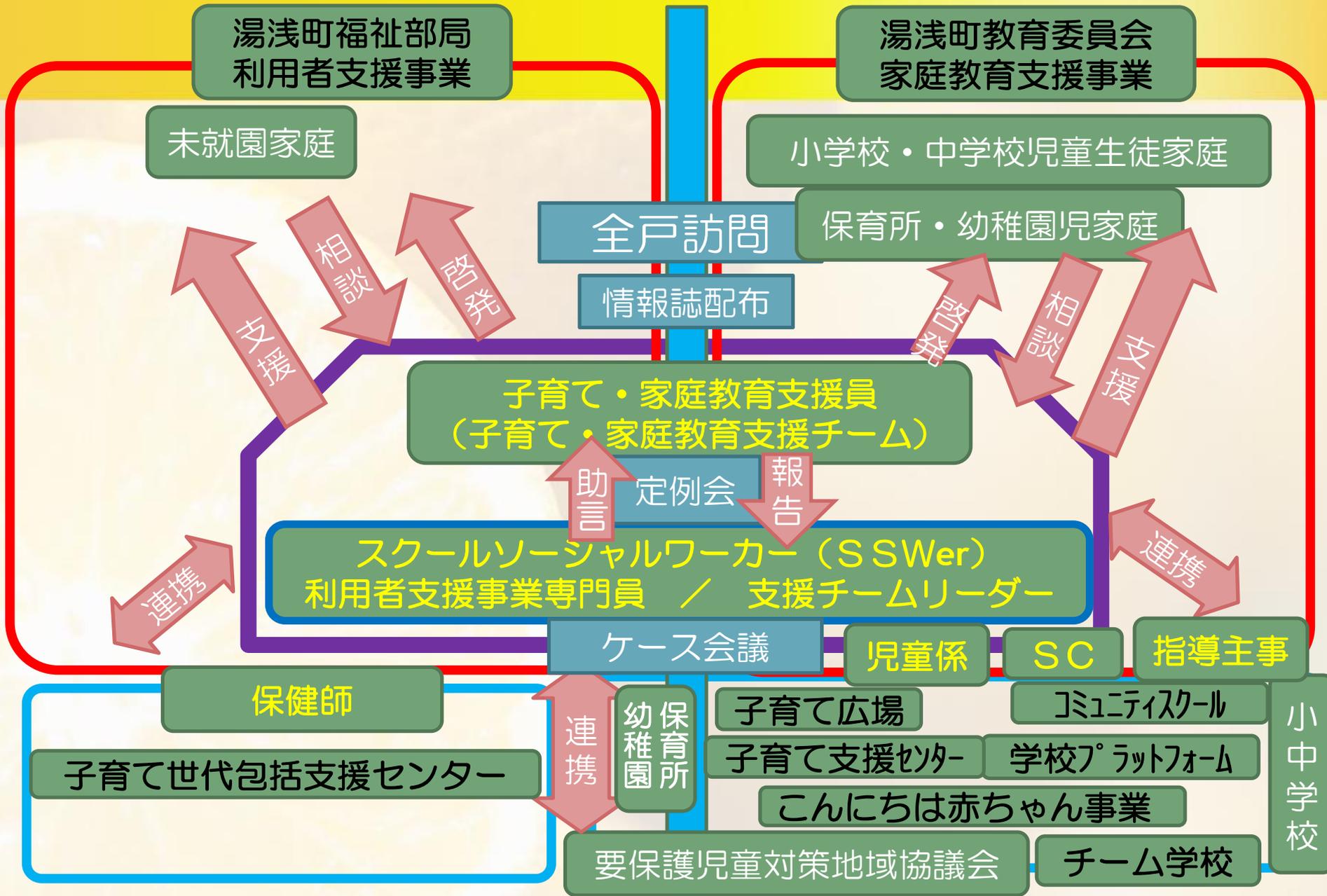
(子育て・家庭教育支援事業)

- 子育て・家庭教育支援センターの設置
 - ・ 相談窓口の一本化（役場1階）
 - ・ 専門員の配置（SSW・チームリーダー）
 - ・ 支援員の配置（支援チーム員）
- 全戸訪問（乳児～中学生の全家庭）
- 情報誌の配布（乳児～中学生の全家庭）
- 教育委員会と保健センター、保育所、幼稚園
小・中学校、高等学校などとの連携

利用者支援事業の役割について (H27年度より)



福祉と教育が協働連携した子育て・家庭教育支援体制



子育て・家庭教育支援事業の趣旨

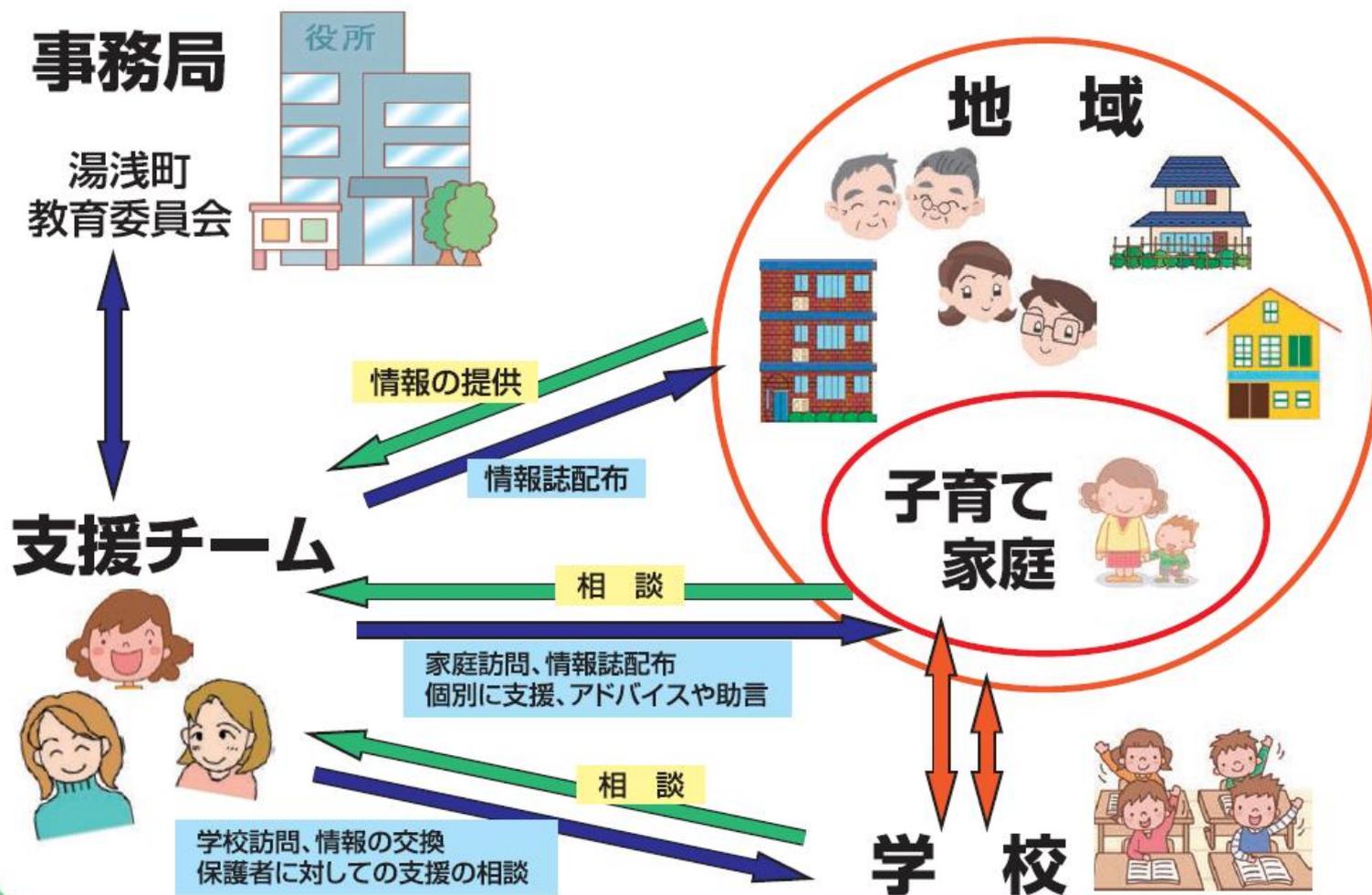
「つながろう 湯浅！」

～人と人がつながる家庭教育支援～



家庭教育支援チームって何をするの？

家庭教育支援チームって何をするの？



子育て・家庭教育支援員の構成

- リーダー(元保育所所長)：週3日
 ※県スクールソーシャルワーカー（週2日）
- 事務職員（1名）
- アドバイザー（元校長：男性1名）
- 訪問支援員（女性12名）
 元学校教員、元保育士、民生児童委員、
 母子保健推進員、栄養士、地域住民、
 読み聞かせボランティア活動員

「とらいあんぐる」の主な活動

全戸家庭訪問

※支援が必要な家庭に対して、

具体的にどのような関わりを行っていいのか？

- 家庭教育情報誌の作成・配付による啓発
- 家庭訪問によるつながりづくり・相談対応
- 家庭（保護者）への直接・間接的支援



家庭の安定＝子どもの健やかな成長

講座の開催

- 地域（乳幼児の保護者やお年寄り）
- 学校（親子学年行事等）
- ACTすこやか子育て講座（子育て中の保護者）

子育て・家庭教育情報誌『すまいる』

「すまいる²」 「Babyすまいる」 「全戸配布用すまいる」

- コンセプト：「つながろう 湯浅！」
- 誌面構成：「園・学校等紹介」「漫画」「レシピ」「行事予定」等
- 内容
 - ・ 保護者、子育て経験者の視点
 - ・ スクールソーシャルワーカーの視点
 - ・ 保育所、幼稚園、学校現場の視点
 - ・ 教育委員会の視点
 - ・ 地域での見守りの啓発

『すまいる²』(幼保小中)と『Babyすまいる』(乳幼児)

つながろう 湯浅! 子育て・ 家庭教育情報誌 **すまいる**



湯浅中学校では、3年生は技術の授業で、特別にきました。この農作業の体験を通して食生活に備えられ、このほど和歌山県農業協同組合中央会より生徒たちは雑草の生い茂った畑の整地から始まり実習、販売に至るまで年間を通して取り組みます。このような体験で働く喜びや作業の大変さを学習の機会を高めることによって、自分自身に



すまいる くお父さん!あな

子育てワンポイント

子どもたちは毎日あつたてで暮らしていますが、日々仕事で忙しくて帰って来た時でもこんなお話を聞いてくれるといいですね。

子育てワンポイント

子どもたちは毎日あつたてで暮らしていますが、日々仕事で忙しくて帰って来た時でもこんなお話を聞いてくれるといいですね。

つながろう 湯浅! 子育て情報誌 **Babyすまいる**

新しい保健センター
乳幼児健

子育てワンポイント

子どもたちは毎日あつたてで暮らしていますが、日々仕事で忙しくて帰って来た時でもこんなお話を聞いてくれるといいですね。

はまちゃん にここクッキング No.1

《電子レンジでフレンチトースト》
1人分 209kcal

【材料】1人分
食パン(厚切り) 2枚
卵 2個
牛乳 50cc
バナナ 2本
とろろチーズ 1枚

【作り方】
1. 食パンを電子レンジで1分加熱し、バターを塗る。
2. 卵を溶き、牛乳を加える。
3. バナナを薄切りにし、食パンの間に挟む。
4. チーズをのせて、電子レンジで1分加熱する。

Hello! 笑美 & 笑太

笑美と笑太の楽しいお話

笑美: こんにちは、笑太くん。今日は元気ですか?

笑太: はい、元気です。今日は公園で遊んだんですよ。

笑美: 公園で遊んだんですね。楽しかったですか?

笑太: はい、楽しかったです。お友達と遊んで、お花もたくさん見ました。

情報誌『すまいる』配布状況

◎情報誌を3種類作成

「すまいる²」(幼保小中学生家庭用) 毎月

「Babyすまいる」(乳幼児家庭用) 年4回

「すまいる(全戸配布)」(町内全世帯) 年2回



◎家庭訪問による配布

A湯浅小学校区 約324世帯

B山田,田栖川,田村小学校区 約 98世帯

☆保育所,幼稚園,未就園児 約283世帯

C湯浅中学校区 約268世帯

※A・B・Cの3ブロックを3ヶ月の
ローテーションで訪問



家庭訪問をするにあたっての心得①

- ・トラブルの未然防止のために
- ・効果的な訪問のために

◇ 『訪問支援の約束事』・・・別紙参照

1. 訪問支援者としての自覚

- ①個人情報情報の保護（守秘義務）について
- ②訪問する目的について

2. 訪問支援の準備

- ①個人証明について
- ②訪問の案内について
- ③緊急時の連絡先について
- ④訪問先の把握について



家庭訪問をするにあたっての心得②

- ・トラブルの未然防止のために
- ・効果的な訪問のために

◇ 『訪問支援の約束事』・・・別紙参照

3. 家庭訪問

- ①自己紹介について
- ②支援は相談を受けてから
- ③相手の話を聞き続ける姿勢で
- ④訪問時、答えは出さなくともよい

4. 家庭訪問の後で

- ①訪問後の報告について
- ②支援方針の検討

※訪問支援Q&A



家庭訪問～支援介入まで

- 訪問時の保護者との会話
 - ・きっかけづくりとして“テーマ”を決める
- 訪問時の気づき
 - ・家が乱雑になってきた
 - ・手紙やチラシがたまっている
 - ・いつ訪問しても留守
- 相談を受けた家庭に対して
 - ・支援員の担当制
- 相談の内容によって
 - ・支援員による継続支援
 - ・SSWとしての支援

支援会議の定例化

支援員の責務として

- 共感・傾聴ができる
- 個人情報と守秘義務の厳守
（要保護児童対策地域協議会の中で）
- 個人活動ではなくチーム活動として
- 研修受講等での支援員の資質向上
（県主催の研修やチーム内研修など）
- 支援員同士の親睦や情報共有の場づくり

子ども・子育て支援センター 「とらいあんぐる」



DVDをご覧ください

家庭教育は、すべての教育の出発点

忙しい毎日の中で、子供とのコミュニケーションやしつけに戸惑いや息詰まりなど、一人で悩んだりすることってありませんか？
そんな時、近くに気軽に相談できる人がいたら・・・
家庭教育支援チームは、そんなご家庭での皆さんの頑張りを共に支え、地域や学校とのつながりづくりや専門機関との橋渡しをお手伝いします。

1. はじめに
2. 橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」
～メンバーの得意分野を生かした多様な取組～
3. 千葉市家庭教育支援チーム「こもんず」
～地域における支援のネットワークづくり～
4. 湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」
～全戸訪問による相談支援～
5. おわりに

文部科学省は、各地で活動する家庭教育支援チームを応援しています。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

18min	片面・1層ディスク	MPEG-2	COLOR	複製不能
	16:9 LB			



家庭と地域・学校をつなぐ

家庭教育支援チーム



家庭と地域・学校をつなぐ

家庭教育支援チーム

～親子が元気になる家庭教育支援の実践のために～



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

親子参加型つながりづくり(学校・公民館)

■ キッズマナー教室



■ バルーンアート



■ 万華鏡作り



■ 親子料理教室



■ 和菓子作り



子ども・保護者・地域とのつながりづくり

■ 「収納術」講座



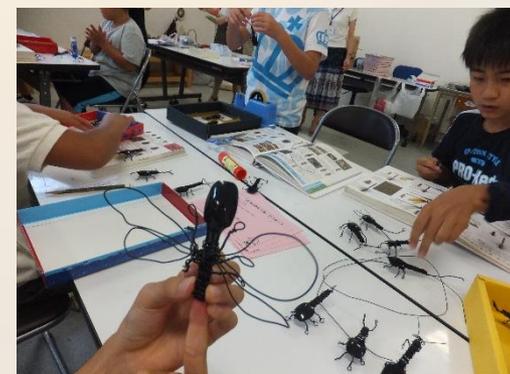
■ エコバッグづくり



■ スクラップブックキング



■ 夏休み工作教室



「ACTすこやか子育て講座」



家庭訪問型支援を行うとしたら

～地域の課題や目的を明確にして～

1. 管轄主機関（目的、**予算**、**人材**等）
2. 対象地域・年齢・家庭の範囲
3. 組織・人材
 - ①組織（チーム・個人、**公的位置づけ**等）
 - ②**人材の選出**（**中心となる人材は？**）
 - ア 既存の団体から、新しい人材から
 - イ 専門性・役職重視、素人性・人物重視
 - ウ 教育関係者 保育・福祉関係者
民生児童委員 養成講座修了者
子育て支援団体関係者 etc
 - ③**SSW**、**SC**が兼務（**学校との連携**）



家庭訪問型支援を行うとしたら ～地域の課題や目的を明確にして～

4. 配置場所（学校、役場、公民館、NPO等）
5. 家庭訪問支援対象(全戸、一部全戸、個別)
 - ◇訪問支援の方法や情報管理の仕方
 - ◇訪問時の相談対応スキル等の研修
 - ◇園所・福祉部局や専門機関との連携
 - ◇学校（管理職、担当、SSW等）との連携
 - ◇コミュニティスクールへの位置づけ
 - ◇具体的支援の役割・方法の明確化



訪問型家庭教育支援の型には

ユニバーサル型

地域全ての家庭を訪問

- ・全戸訪問のため、保護者の受け入れが容易
- ・問題の未然防止、早期発見・早期対応

ベルト型

同年齢、同学年の子供を持つ家庭を訪問

- ・自治体の規模を問わずユニバーサル型のメリットを活かせる

ターゲット型

不安を抱えていたり、訪問希望のある家庭を訪問

- ・家庭のニーズに合わせた支援
- ・個々の現状に合わせた支援のため、専門性を発揮

エリア型

地域ごとの特徴に応じた訪問支援のメニューが設定可能

- ・他部局実施の行政データ等、実態調査の結果に照らし合わせた支援が可能

訪問型の種類

～それぞれのメリットとデメリット～

全戸訪問

素人性

■ メリット

- どの家庭にも警戒されず訪問ができる
- 全戸訪問から個別訪問に繋げられる
- ノーマークの家庭が早期の問題発見につながる
- 定期的に訪問するため、保護者の安心感やストレスの発散につながる
- 学校全体の情報が入りやすい

■ デメリット

- 支援員の人数確保や、準備等の作業の負担が大きい
- 訪問軒数が多くなるため、規模の大きい地域では難しい

個別訪問

専門性

■ メリット

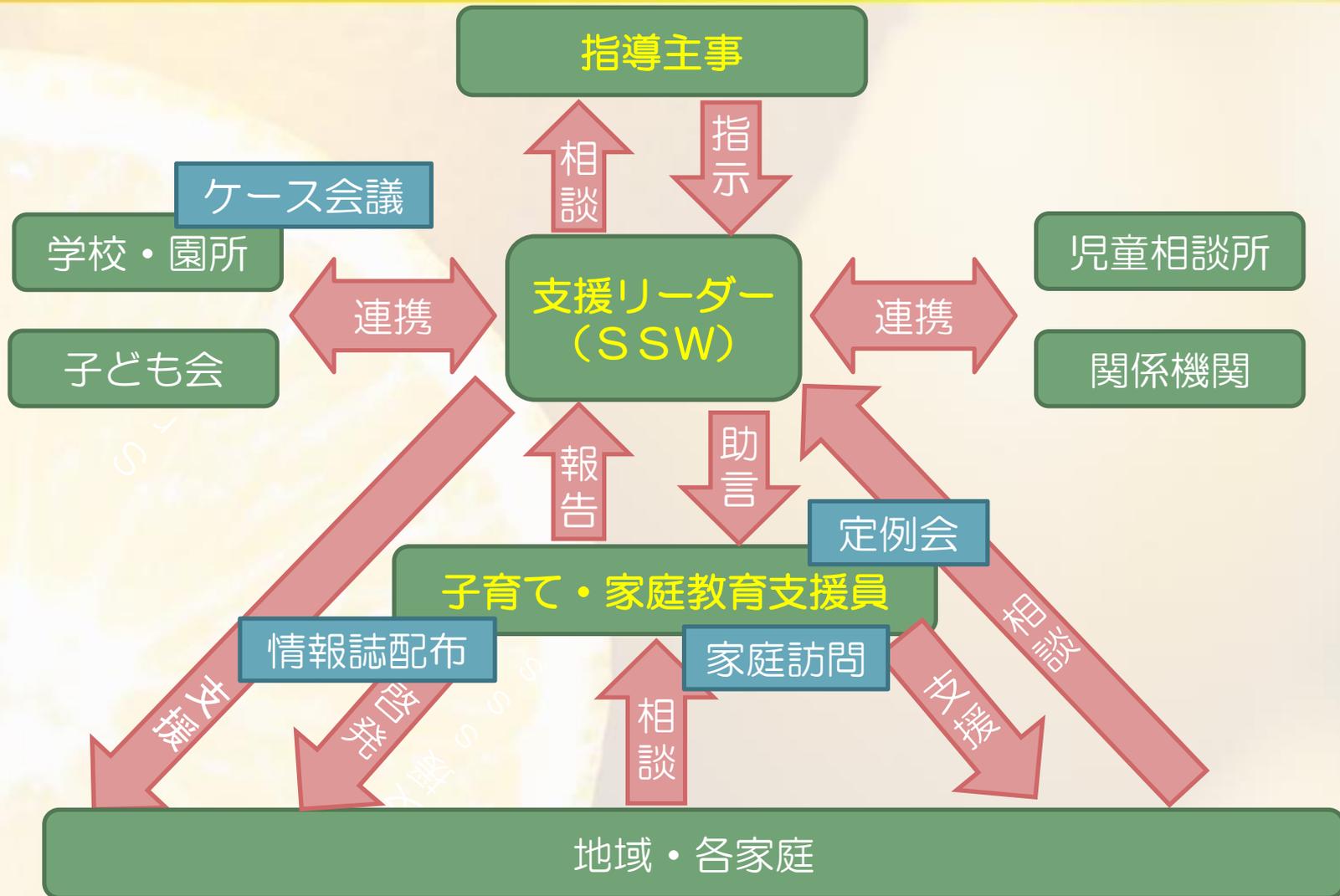
- 日数や時間がかからない
- 課題のある家庭にピンポイントで必要な支援が可能

■ デメリット

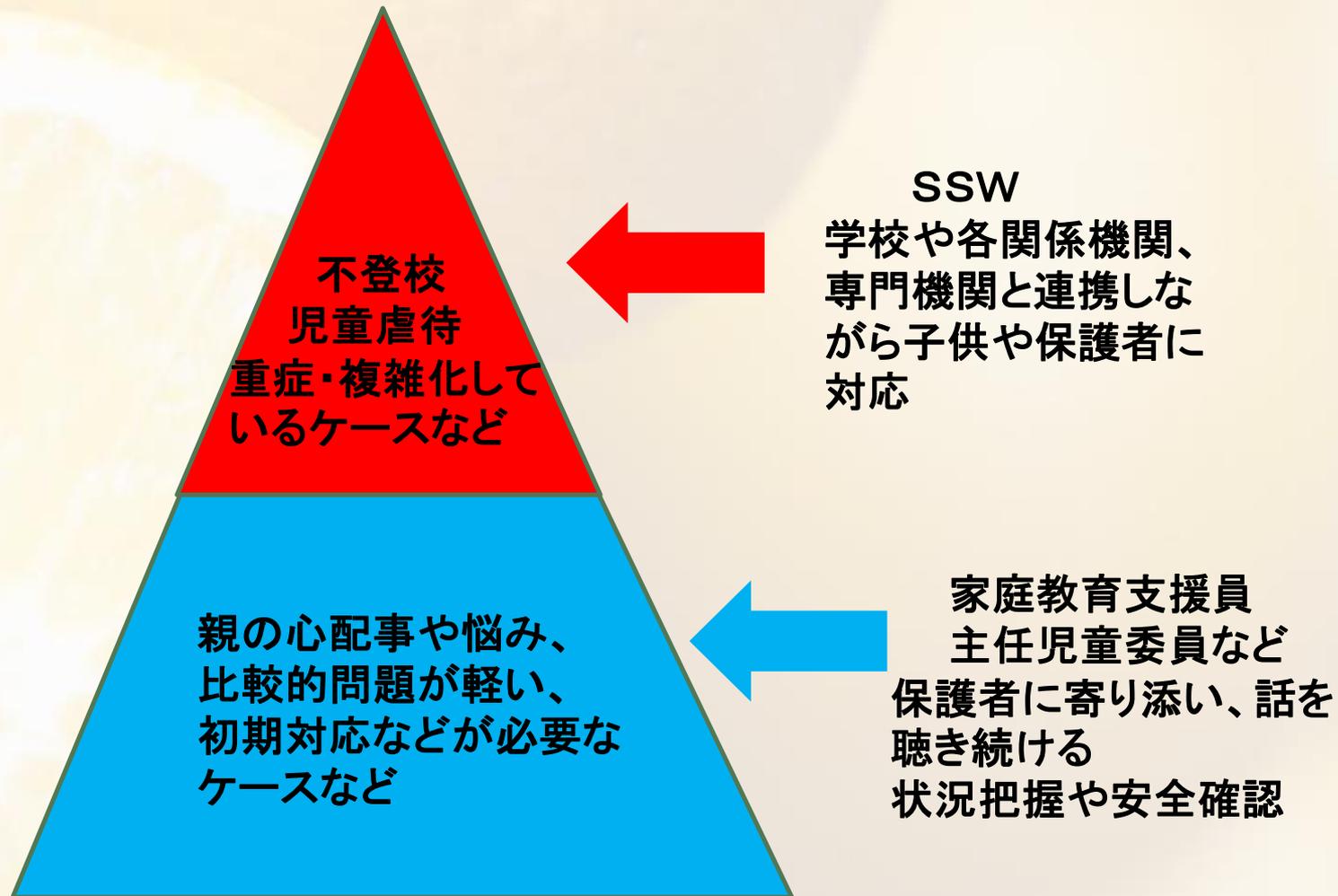
- 初期訪問のきっかけ作りがむづかしい
- 訪問家庭をどう把握し、支援に結びつけるか困難
- 訪問を拒否される場合がある

支援方法の違い

SSWを中心とした支援体制



家庭支援の役割分担



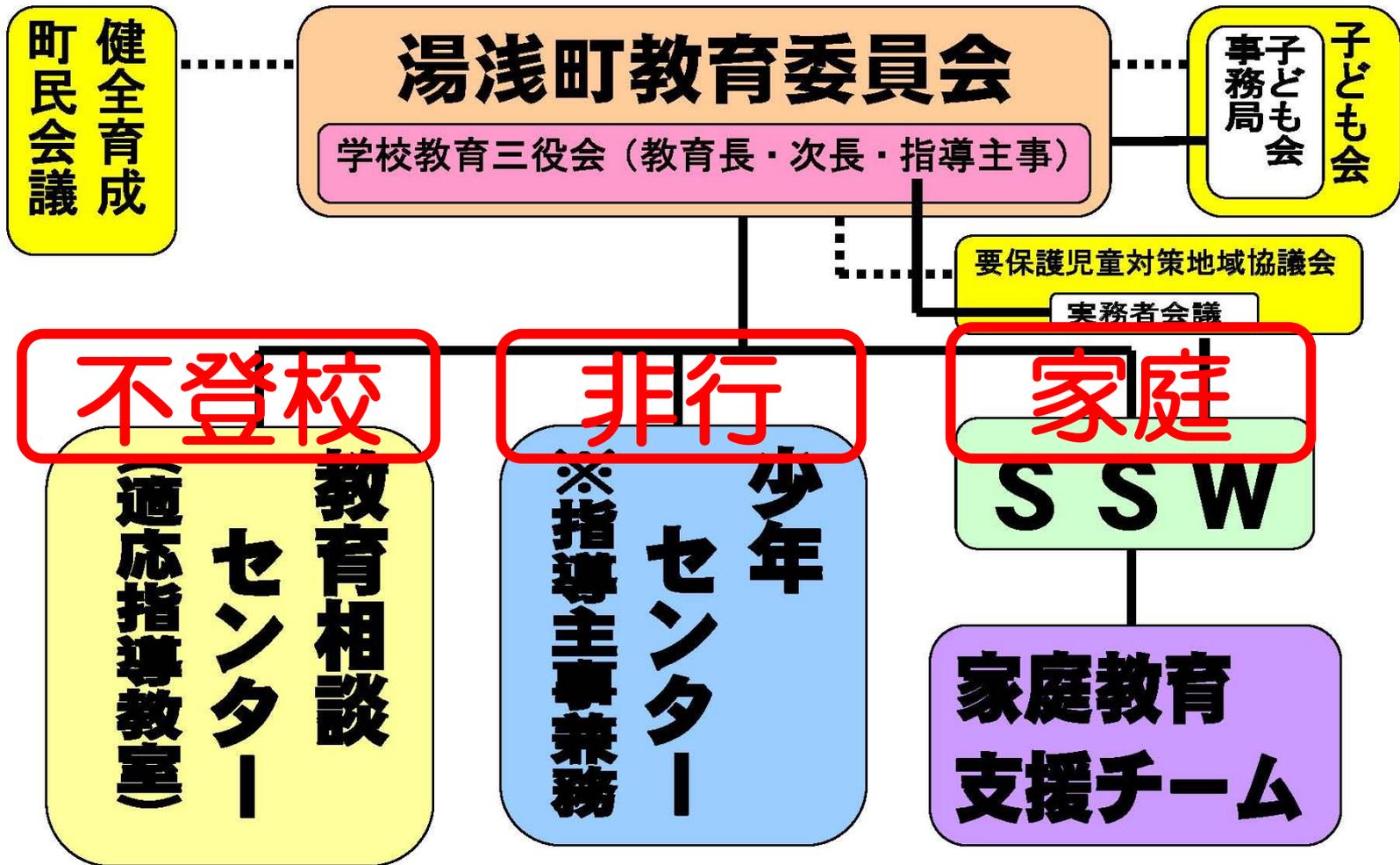
学校との連携強化

支援方針の共有

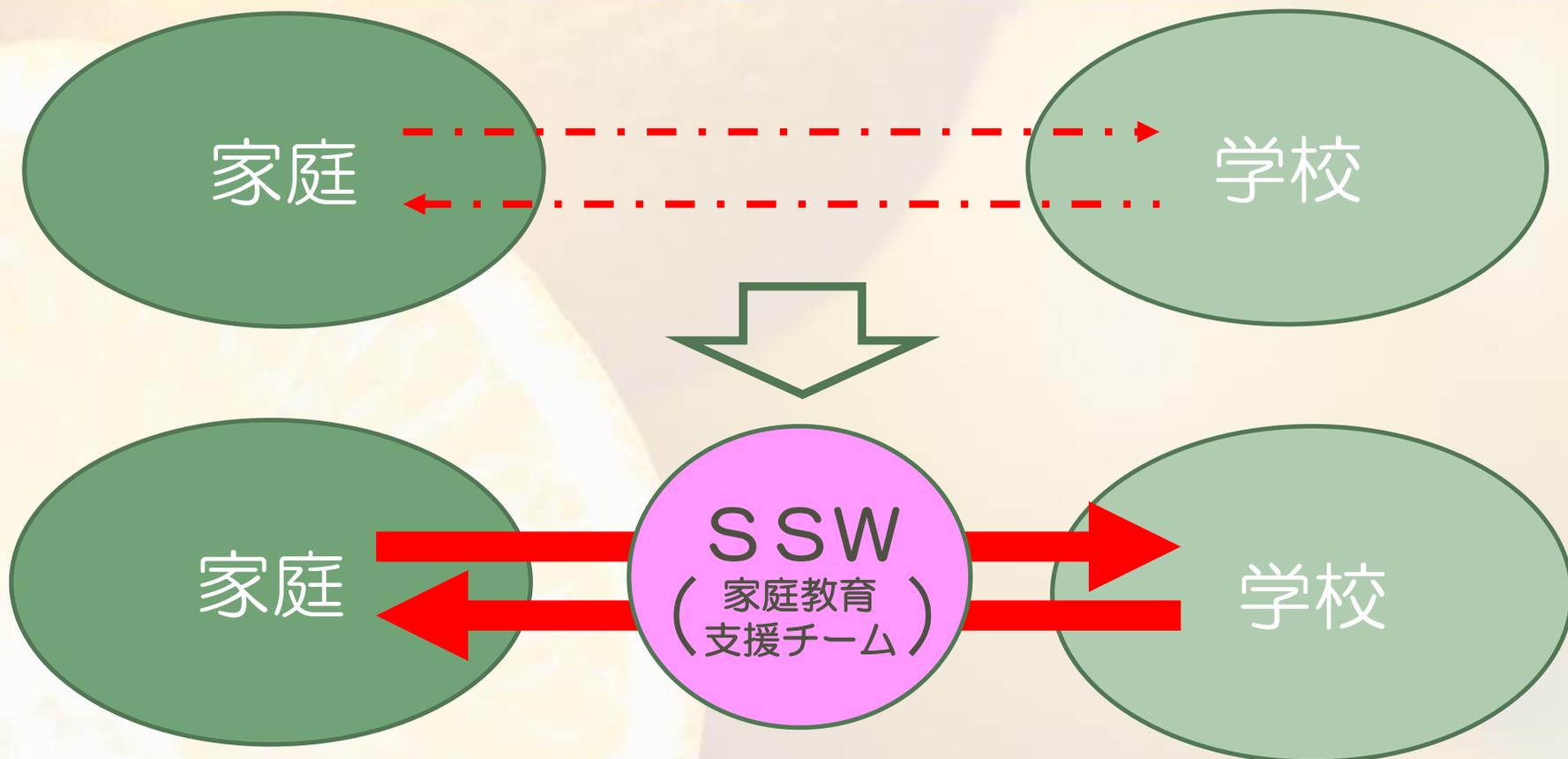
子どもや保護者にどのような支援をしていくのか？

- 学校との情報共有
 - ・ 家庭訪問後の報告（親の思い・学校への要望等）
- 個別ケース会義等での支援方針の共有
- 学校とSSW・地域の支援員と連携会議
- 小・中学校との連携会議
 - （小学校学習支援・中学校生徒指導・子ども会
・指導主事・SSW）

湯浅町：子どもや家庭への支援体制

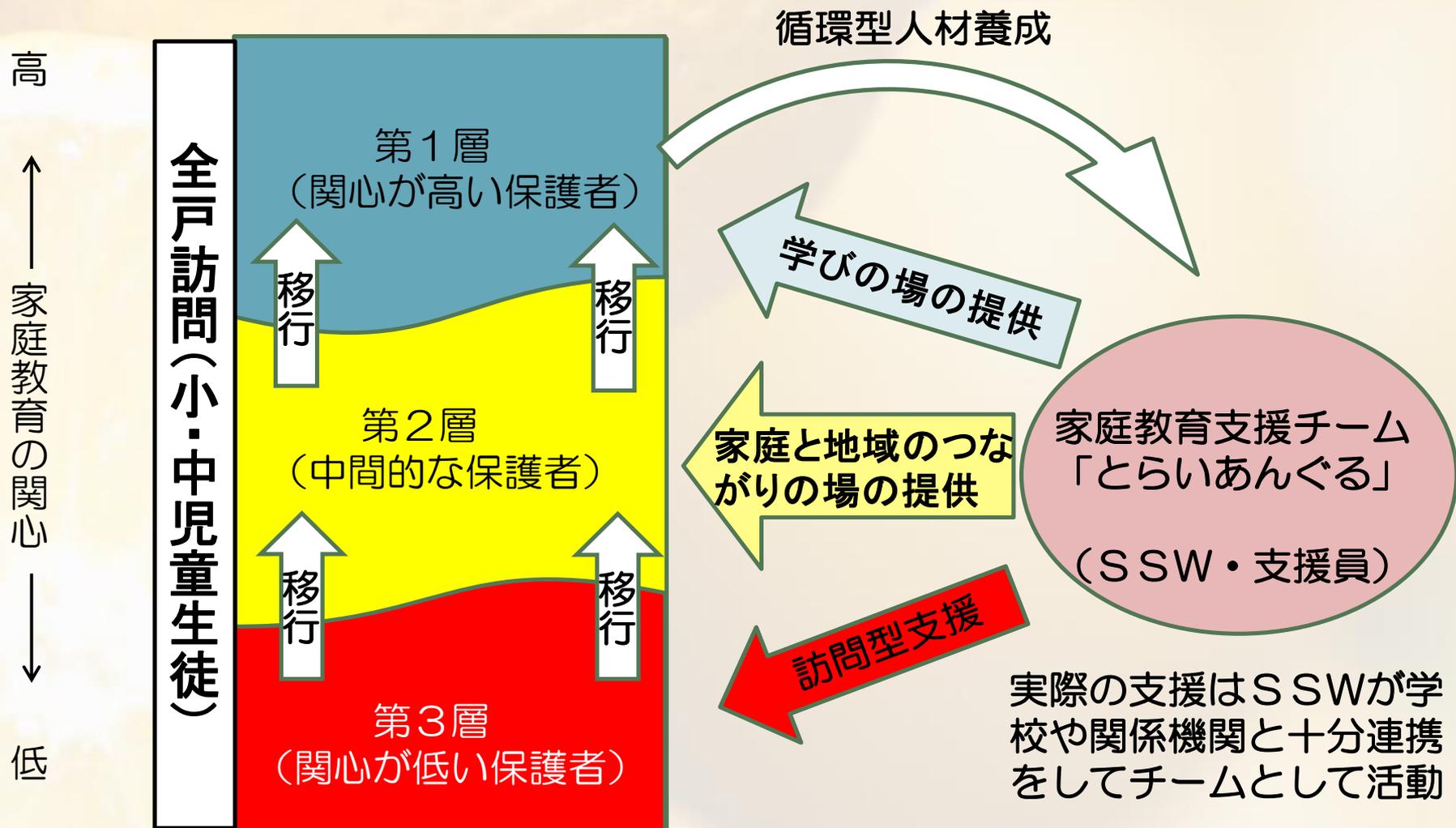


「子どもの最善の利益」のために



学校と家庭の関係に、第三者であるSSWや家庭教育支援チームが「子どもの最善の利益」のために、子育て相談や訪問型支援等を通じて、家庭と学校のつながりをより強固なものにし、両者がより連携して子どもの教育を行える体制をつくり、それを教育委員会として全面的にバックアップしていく。

家庭教育支援チームのねらい

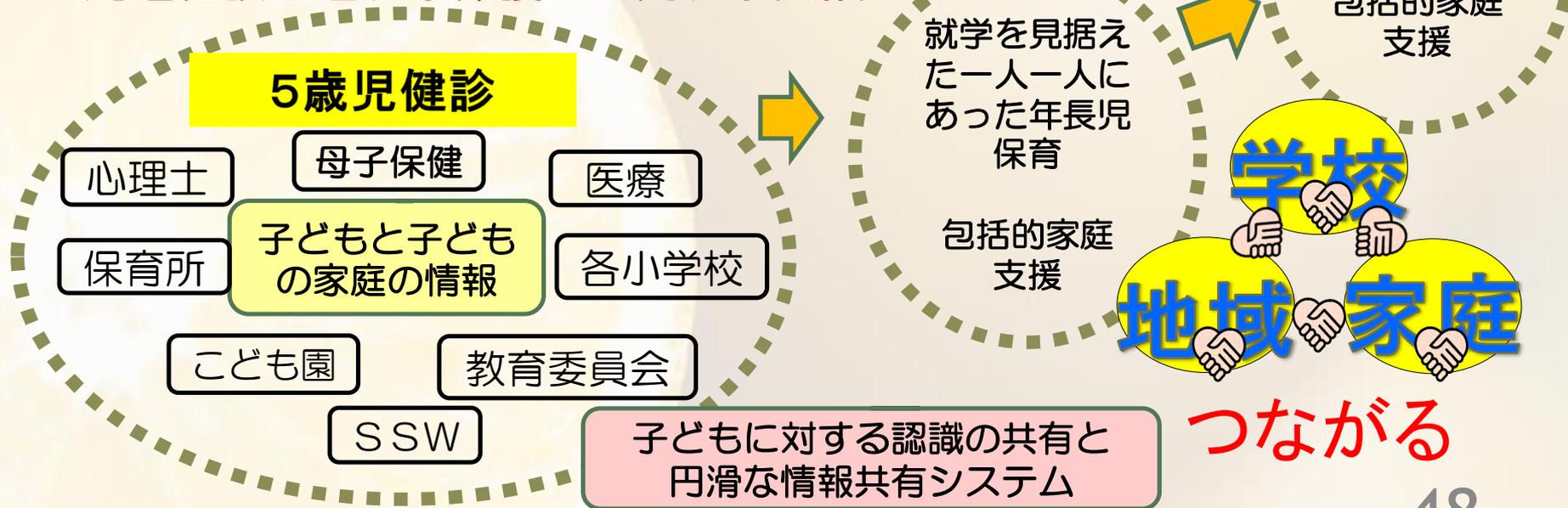


切れ目のない子育て支援

福祉と連携した訪問による成果

- **乳幼児期からの支援開始**
(しつけ相談・小1プロブレム解消等)
- **教育と福祉の協働による連携強化**
(医療・介護・保健、要対協との連携)
- **発達相談と適切な保護者の関わり支援**

子どもの発達を切れ目なく支援し保障する継続プログラム



子育て・家庭教育の取り組みを通して 切れ目のない子育て支援

福祉と連携した訪問による成果

- 乳幼児期からの支援開始
（しつけ相談・小1プロブレム解消等）
- 教育と福祉の協働による連携強化
（医療・介護・保健、要対協との連携）
- 発達相談と適切な保護者の関わり支援

子育て・家庭教育の取り組みを通して 訪問型家庭教育支援

全戸訪問による成果

- 全世帯の状況把握が可能（早期発見・対応）
- 問題発生時の迅速な対応（日頃のつながり有効）
- 気になる家庭への継続的な支援・見守り
（意図的・計画的）
- 初回訪問の受け入れやすさ（全戸・情報誌）
- いつでも相談できる安心感（定期的な訪問有効）
- 不信感などの解消（学校等へのクレーム減少）

- 支援が必要な家庭への支援を届ける
- 第三者が対応することのメリットが大きい

課題と今後の展望

課題

- 義務教育終了後の支援について
- つながりにくい家庭に対して

今後の展開

- 訪問を受ける側から訪問する側にと、循環型人材育成の仕組みを定着させながら、今後も家庭訪問活動を持続・発展させて行く
- 子どもの最大の利益と可能性をのばす地域を目指し、全ての子ども・家族と地域住民を対象に、訪問等で直接顔をあわせることによって培った信頼を基盤に、子ども・子育て家庭はもちろん誰一人取り残さない地域コミュニティづくりをめざし、定期的な家庭訪問による支援を持続する。

家庭支援の3つのキーワード

“気づく（見つける）”

“見守る（寄り添う）”

“繋げる（関係機関につなげる）”

セーフティーネットから抜け落ちる家庭を
アウトリーチで！！

おわり

